

私の父の両親は岩美で民宿をやっています。夏、海の日と共に私たち親子四世代の女性には、いそがしい日々が待っています。

朝早くから民宿に泊まっているお客さんの朝食をおばあちゃんが作ります。私も手伝えばいいのですが、ラジオ体操が終わってから四十分かけて岩美に行くので間に合いません。私が民宿に着くころ、お客さんが起きて、朝食を食べるに食堂に下りてくるので、ご飯とおみそ汁をだします。朝食が終わると、片づけにかかります。その片づけが終わった後、山ほどある宿題を民宿の食堂でやって、宿題が終わるころ、お客さんが帰られるので、今度は部屋のそうじです。このそうじがとでも大変でシーツの交かん、ふきそうじ、ゴミ出しなど、とにかくたくさん仕事があります。でも、みんなが協力して汗びっしょりになりながら、お昼前に午前の部が終了です。

最初に親子四世代といいましたが、それぞれの役目は、まず一代目、ひいおばあちゃんは八十九才ですが、民宿で使う、いろいろな野菜を畑で作っています。他にもシーツの洗たくでピシツとのりづけして、いつもきれいなシーツに交かんできるようにしてくれています。少し耳は遠いけど、体はとても元気でひいおばあちゃんの作る野菜は甘くておいしいとお

客さんが言ってくれます。

次に二代目のおばあちゃんは民宿全体の管理をしています。毎日のこんだてを考えたり部屋割りや接待など、頭と体がフル回転なので見ているだけで大変そうです。

次は三代目、私の母です。お母さんは主に買い物と食事作りをやっています。こんだて通りの料理ならいいのですが、時々お子様ランチを作ってほしいとか、魚料理じゃなくて肉料理にしてほしい等、とつぜんメニューの変こうがあるとお母さんの出番です。冷蔵庫にとらめっこしながらお客さんの希望に応えられるような物を作って出します。

八十九才のひいおばあちゃんから十二才の私まで親子四世代、だれ一人ぬけても成り立たない民宿の仕事です。ひいおばあちゃんが元気でないとおいしい野菜は手に入らないし、おばあちゃんが頭をフル回転しないと民宿が機能しません。片道四十分かけて民宿に通うのは大変だけど、私たち親子も大きな力になると言ってくれます。私は六才の時から民宿の手伝いを始めて今年で七年目なので、今では言われなくても動けるし、出来る事やってみんなを助けたいと思っています。それぞれ役割はちがうけど、私たち四世代の女性は、チームワークで毎年夏を乗り切っています。

鳥取大学附属小学校
6年 田中 杏沙美



チームワークで
乗り切るぞ

子どもが心豊かに健やかに育つためには、家庭や家族のあり方が何より大切とされています。青少年育成国民会議は、昭和41年から毎月第3日曜日を「家庭の日」とし、親子のふれあいや家族の団らんを推奨しています。青少年育成鳥取市民会議でも、この「家庭の日」の普及促進を図るため、昭和57年から、市内の小学校児童を対象に家庭や家族に関する作文のコンクールを毎年行っています。今年度は、69点の応募がありました。今回は、その中から最優秀賞に選ばれた作品を紹介します。

作文 家庭の日
コンクール